

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- いじめの早期発見、早期対応に努め、平成 29 年度末実施の校内生徒アンケート調査において「もし、いじめがあっても、先生たちは適切に対応してくれる」についての肯定的回答率は全体で 88.3%であり、今年度は、肯定的回答率が 95%以上を目標に取り組んでいきたい。
- 平成 29 年度実施の「全国学力・学習状況調査」において国語 A においては、スピーチでイラストを掲示する箇所を選択する問題や一部漢字の書き取り問題で全国平均を上回る正答率であったが、国語 B については、表現技巧を用いる理由や表現方法の意図を書く問題の正答率が低かった。数学 A においては、四則の計算や、式の値を求める問題では全国平均よりも比較的高い正答率であった。しかし、数学 B においては、説明する問題での正答率が低かった。
- 平成 29 年度実施の「全国体力・運動能力、運動習慣調査」結果検証シートより、昨年度に比べ全国平均を上回る項目が増えた。今まで平均を下回っていた長座体前屈・ハンドボール投げが平均を上回ることができた。しかし、上体越し・反復横跳び・50m 走については全国を下回ることになった。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成 33 年度実施の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っている」の「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」についての肯定的回答率（生徒の割合）を平成 28 年度より向上させる。
- 平成 32 年度末における校内生徒アンケート調査において「私は学校生活を楽しみにしている」における肯定的回答率を 85%以上にする。
- 平成 32 年度末における保護者アンケート調査において「学校では安全が確保されさまざまな教育活動が行われている」についての肯定的回答率を 80%以上にする。
- 区役所（子育て支援）、こども相談センター、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、少年サポートセンター、警察署、消防署等との連携を強化し、より安心安全な学校地域社会づくりに努める。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成 32 年度のチャレンジテストにおける標準化得点を、平成 28 年度より向上させる。
- 平成 32 年度末における校内生徒アンケート調査において「先生たちは、授業をわかりやすくするために工夫している」における肯定的回答率を 85%以上にする。
- 平成 32 年度末における保護者アンケート調査において「学校は基礎的な学力が身につくように努めている」における肯定的回答率を 80%以上にする。
- 平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における向上点が、全国平均を上回るように取り組む。（体育実技授業時、部活動、運動的行事等に基礎トレーニングを取り入れる等）
- 平成 32 年度末における校内生徒アンケート調査において「朝食を毎日取る習慣が身についている」における肯定的回答率を 95%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査における「もし、いじめがあっても、先生たちは適切に対応してくれる」の項目について肯定的回答率を前年度より上昇させる。
- 年度末の校内調査における「学校生活を楽しみにしている」の項目について肯定的回答率を80%以上にする。
- 年度末の校内調査における「将来の夢や目標を持っている」の項目について肯定的回答率を80%以上にする。
- 年度末の校内調査における「学校や地域でしっかりあいさつをしている」の項目について肯定的回答率を前年度より向上させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- 中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である持久走の平均の記録を、前年度より向上させる。

学校園の年度目標

- 中学校チャレンジテストの質問紙調査における「授業の内容がよくわかる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 年度末の校内調査における「先生たちは、授業をわかりやすくするために工夫している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。

【その他】

- 年度末の校内調査における「朝食を毎日とる習慣が身についている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より向上させる。
- 年度末の校内調査において、「体育大会・文化祭などの行事で、わたしが力を発揮し活躍する場がある」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より向上させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立桜宮中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・地域・家庭）の実現】 全市共通目標（小・中学校） ○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。 ○年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90%以上にする。 ○年度末の校内調査において、暴力行為を複数行う加害生徒数を前年度より減少させる。 ○年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 学校の年度目標 ○年度末の校内調査における「もし、いじめがあっても、先生たちは適切に対応してくれる」の項目について肯定的回答率を前年度より上昇させる。 ○年度末の校内調査における「学校生活を楽しみにしている」の項目について肯定的回答率を 80%以上にする。 ○年度末の校内調査における「将来の夢や目標を持っている」の項目について肯定的回答率を 80%以上にする。 ○年度末の校内調査における「学校や地域でしっかりあいさつをしている」の項目について肯定的回答率を前年度より向上させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 個々の生徒の規範意識や社会性の醸成に努めるとともに、規律ある集団の育成に取り組む。	A
指標 ・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90%以上にする。 ・校内調査における「学校や地域でしっかりあいさつをしている」の項目について肯定的回答率を前年度より向上させる。	
取組内容②【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 個々の生徒の生活実態を把握することにより生徒理解を深め、それぞれの生徒に応じた課題解決に取り組む。	B
指標 ・校内調査における「もし、いじめがあっても、先生たちは適切に対応してくれる」の項目について肯定的回答率を前年度より上昇させる。 ・校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。 ・年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。	
取組内容③【施策 2 道徳心・社会性の育成】 人権教育を基盤に道徳授業をはじめとする全ての教育活動を通じ、人を思いやる気持ちや仲間を大切に作る心など道徳的心情を育てる。	B
指標 ・校内調査における「自分を大切にするとともに、人の立場を考え、相手を思いやることができる」の項目について肯定的回答率を前年度より向上させる。 ・年度末の校内調査において、暴力行為を複数行う加害生徒数を前年度より減少させる。	

取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】 外部人材を活用した体験的な学習を取り入れ、将来に夢や目標を持って学習する生徒を育成する。	
指標 ・年度末の校内調査における「将来の夢や目標を持っている」の項目について肯定的回答率を80%以上にする。	—
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①・校内生徒アンケート調査における「わたしはきちんとした服装で学校生活を送っている」についての肯定的回答率94.9% ・「わたしは時間を守り遅刻しないように心掛けている」についての肯定的回答率92.3% ・「わたしは学校や地域でしっかりあいさつをしている」についての肯定的回答率94.1% ②・校内生徒アンケート調査における「もし、いじめがあっても、先生たちは適切に対応してくれる」についての肯定的回答率86.9%（前年度88.3%） ・1学期実施した「いじめアンケート調査」において生徒からの回答は0件であった。 ③・校内生徒アンケート調査における「自分を大切にするとともに、人の立場を考え、相手を思いやることができる」についての肯定的回答率87.6%（前年度84.7%）	
下半期への改善点	
○教育活動全般を通して高い人権意識をもった指導方法を実践する教職員づくりに努める。 ○年度末校内調査における「学校は一人ひとりの子どもを大切にしたい教育を進めている」についての肯定的回答率が85%以上になるようにする。	

大阪市立桜宮中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 全市共通目標（小・中学校） ○中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。 ○中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。 ○校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。 ○全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である持久走の平均の記録を、前年度より向上させる。 学校の年度目標 ○中学校チャレンジテストの質問紙調査における「授業の内容がよくわかる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 ○年度末の校内調査における「生たちは、授業をわかりやすくするために工夫している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 生徒一人ひとりの学力を把握し、習熟度別少人数授業、研究授業等に積極的に取り組む中で指導方法の工夫・改善を図り、より「わかる授業」を実践し、学力の向上に取り組む。	—
指標 ・中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ・中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。 ・中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。 ・年度末の校内調査における「先生たちは、授業をわかりやすくするために工夫している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。	
取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 主体的・対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法の改善や ICT の活用により、生徒の学習意欲が高められる授業の改善・工夫に取り組む。	B
指標 ・校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。	
取組内容③【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 保健体育科の授業や体育的行事において、生徒が自主的に企画、運営できる工夫を図り、生徒が自ら運動に取り組もうとする意欲を高め、体力の向上を図る。	—
指標 ・保健体育科の授業において、持久走の記録で本校前年度の平均記録を上回る。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①・チャレンジテスト H30, 9 実施、11, 結果返却予定（3 年生） H31, 1 実施（1, 2 年生）	
②・校内生徒アンケート調査「学校の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」についての肯定的回答率 80. 3%（前年度 85. 0%）	
③・今年度、三学期実施予定である。	
下半期への改善点	
○ICT の活用を積極的に実施し、学力向上をめざす授業改善によって、基礎・基本の定着を図るとともに、学力補充の充実や発展的な学習を工夫し、規律ある学習姿勢と自主的に学ぶ意欲を身につけさせ、言語活動を取り入れた学習内容を工夫する。	
○平成 30 年度「全国学力・学習状況調査」における平均正答率は全国平均より、 国語 A+0. 9%、国語 B+2. 8%, 数学 A+0. 9% 数学 B+2. 1%, 理科-0. 9%（大阪市平均よりも+2. 0%）	